

全部床義歯の臨床

-歯科医師はこう考えて設計している II-

吉備 政仁（豊中市開業 大阪大学招聘教員 日本補綴歯科学会専門医・指導医）

全部床義歯の臨床においては、臨床研究によるエビデンスは少なく、いわゆる名人上手といわれる先人の経験による方法が紹介されているが、科学的に証明された方法が確立されているとは言い難い。どのような症例にも通用する手技を見出すことは困難であるなかで、日々の臨床においては試行錯誤しながら格闘しているのが現状である。

こうした中で、全部床義歯の成功のカギは基本的な手技を十分マスターしながら、患者個人個人で異なる症例に対して、問題点を抽出し、的確に持てるオプションを組み合わせていくことが必要と考えている。

本講演では、日常行っているチェアサイドでの基本的な手技とその狙いを紹介させていただき、患者の口腔機能や形態などの情報をどのように技工サイドに伝えていくか、あるいは伝えたいと考えているのかを歯科医師の立場から考察してみたいと思う。